

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人 天仁会		
事業所名	グループホーム うえの家		
所在地	沖縄県那覇市上之屋408-4		
自己評価作成日	平成30年1月21日	評価結果市町村受理日	平成 30年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosvoCd=4790100285-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 2月16日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の皆様が、寛げ、安心し、穏やかに過ごせる空間作り、サービスを提供するよう心がけています。
 何より、ご入居者の皆様の個々のニーズ把握が第一と考えていますが、その為にも、日頃の状態観察(体調面や精神面)を欠かさず、それを職員が共有出来るように申し送りを徹底しケア出来るようにしています。
 今後も自宅にいらっしゃるような温もりある生活が提供できるよう支援を継続していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地の住宅街に立地しており、地位の自治会活動は低調であるが、事業所開設以来、七夕まつりを開催し、定着している。毎年、地域住民、子どもたちが参加し盛況である。地域密着型としての社会貢献に意欲的に取り組んでいる。
 医療法人が母体であることから、就業規定・人事考課が整備され実施されている。介護職員の正規職員化にも取り組み、介護福祉士有資格者は、3か月の試用期間ののち、正規職員に登用している。未資格者についても研修を実施し、有資格化、正規化に向けて積極的に取り組んでいる。
 運営推進会議についても、毎回参加者が充実しており、議論も活発であり、話し合いの結果を、運営に活用しており十分に機能している点は高評価である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、共有を職員間で図り実践しています。	医療法人内に、高齢者福祉部門が組織化されておりその掲げる理念をもとに、事業所独自の理念があり、職員の目につく場所に掲示されている。申し送り時に確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所への散歩時など挨拶を行い、「うえの家」の存在を認識をしていただいたり、イベントへ参加していただいたりしている。	市街地という立地環境のため、地域の方と気軽に交流することは困難である。毎年七夕まつりを実施することにより、イベントが定着し、地域住民に参加してもらうことにより地域での存在感を高めることに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	建物入り口の掲示板にポスターを掲示し、どなたでも入ってきやすいように工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に事故報告や苦情へのアドバイスをいただき、職員へ共有。ケアを中心に生かしている。	小規模多機能ホームと合同で年に6回実施されている。参加者については、行政・地域代表・利用者・家族・法人からの出席がある。ヒヤリハット報告、事業所活動報告を中心に話し合を実施している。その中で家族からの病院受診依頼について、行政と確認が行われ、適切な指導のもと日々のケアに活用するように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告の際や運営推進会議の中で報告をし、アドバイスをいただいている。	運営推進会議に毎回出席しているため、不明確な部分については確認を行うように努めている。事故報告を通して、行政窓口にも訪問しており、指導を受けている。行政より届く、研修情報についても職員の参加を促しケアの向上に活用するように努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束マニュアル」を活用し「行わないケア」を意識しながら実践している。しかし、エレベーターは施錠を行っている。	「身体拘束マニュアル」を法人で作成しており、職員は入職時のオリエンテーションで研修を受講する。事業所内でも日々のケアについて、マニュアルに照らし合わせて確認するように努めている。2階と3階のエレベーターは施錠しており、職員がカギを所持し、解除している。家族は概ね安心できるという評価である。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の変化、身体の確認など、日々職員間で申し送りし注意を払っている。ただ、心理的な影響がないか(与えていないか...)等も見逃さないようにしていかなければならない。	職員間の申し送り時に、情報共有をし注意を払い利用者を尊重したケアができるように努めている。職員が余裕がない時間帯等、十分なケアができていないか振り返りを実施している。自立支援の理念に照らし合わせたケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	どのような支援が必要か、日々の申し送りやミーティングなどで検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入居契約時に契約内容全てを一つ一つ、理解いただくまで説明するように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言葉には日々耳を傾け、反映できるよう工夫しています。ご家族には、面会時や病院受診の際に聞き取りを行い反映させています。	利用者から、日々のケアの中で希望がある場合は、対応するように努めている。ドライブに対する要望が多いが、現状では外出支援に課題がある。本体である天久台病院への受診時は、基本的に同行している。その際に家族にも付き添いをお願いし、情報の共有に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りやミーティング、フィードバック、運営会議等を通じて聞き取りし、反映させています。	年に2回人事考課面接があり、自己評価・主任評価・部門評価をもとに、フィードバックする機会を設けている。人事考課は、賞与に反映し、人事異動についても職員の意向を重視している。日々の申し送りやミーティング等、会議の中で職員から提案された意見を取り入れた運営を行うように努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員人数が厳しい状況にあるが、応援態勢を取るなど対応している。また法人として、H29.12月以降、給与体系を変更し、安心して勤務できるような環境作りを行っている。	介護福祉士有資格者については、3か月の試用期間を経て正規社員に登用している。その結果、職員の定着率が改善されている。介護福祉士受験資格取得のために、法人により受講料貸付を行い、法人内で実務者研修を開講した。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の実務者研修等を受講しやすくするような工夫(法人内での開催、貸付金などの対応)など実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会による勉強会や法人全体での研修などへ参加し、交流する機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの聞き取りや、以前にサービスを使用していらっしゃるのであれば情報を得られるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望はもちろん、ご家族として何が出来て、何が出来ないのかもしっかり把握し、連携しながらケアできるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き取り、状況を把握し必要なケアの把握に努めている。またグループホームのサービス内容を十分に説明し、他に何が必要なのか見極めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の個性を見極め、自信につなげられるようなサービスを提供するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性や役割を把握し支援していく。そのためにも、ご家族が面会に来やすく、ゆっくり過ごせるような雰囲気作りを心がけています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、友人の方々との交流が促進できるように努めています。	ご家族や関係者の訪問時には、お茶・茶菓子の提供や、職員との情報交換の時間を確保するようにし、居心地の良い環境整備に努めている。ボランティアで月に1回ウクレレ演奏会を開催しており、カラオケが趣味だった入居者にとって、楽しむことができる時間を提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置など考慮している。逆に暴言、暴力などで配置変更する場合もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスへの支援は絶対が必要。(介護保険の知識など)安心して次へ進めるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人を一人の人として尊重し、その人の立場になって支援、ケアを行うように努めている。	利用者個々のアセスメントにより、背景を理解し、意向を把握するように努めている。家族からの情報は、病院受診に同行する際を有効に活用し、情報収集に努めている。 利用者の不穏な状況に対しては、行動に着目し、行動の背景を把握し、職員間で共有するように働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を考慮し、要望や必要とするケアの把握に努めている。また、暮らしていく中で気付いたことなどを確実にするためにご家族へ確認するなど行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録、申し送りを基に現状の把握に努め、そこから個々の嗜好・趣味に合わせたサービス提供に努めている。時には主治医の意見(アドバイス)も確認する場合もある。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録やモニタリングを基にご家族と意見交換し、ご本人本意のケアプラン作成に努めている。	介護計画作成時には、家族、利用者も同席し、意向を把握しながら作成している。アセスメントは、半年に1回実施している。モニタリングは、更新時に実施しているが、必要に応じて随時実施している。	介護計画を職員が閲覧しやすい位置に保管し、周知を促しているが、日々の介護記録に反映するための周知徹底が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態についてケース記録として回覧。職員間で情報共有し、ケアプランへも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のケアの中からアイデアも出し合い、また各方面からアドバイスももらいながら、一つのケアにとらわれないように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人にとって何か必要なものが他にあるのか、ご家族、主治医の意見も参考にしながら支援につなげている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族本位の主治医連携に努め、相談、連絡、報告を行っている。また、主治医の専門外の状態変化については、状態に応じた医療機関の相談、紹介などを行っている。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医の受診を継続している。家族からの要望もあり、受診時には職員が利用者・家族とともに同行し、日頃の様子を情報提供する等医療機関との連携を図っている。訪問診療や訪問歯科、認知症専門医の受診をしている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の身体観察は欠かせず、法人内看護師、訪問看護師とも連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供、情報交換に努め、入院先の訪問や主治医との連携に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方針、内容については、その際、その都度に説明を行い、終末期に向けた支援を行っていくよう努めている。	現在看取りは行なっていないが、医療行為の必要がない場合は看取りを行う方針である。家族には契約時、状態変化時に応じて話し合い、利用者・家族の希望があれば訪問診療等と連携を図りながら入居が継続できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応についてはフローチャートを掲示し、確認することで意識を高めている。法人内、救急救命講習会も実施している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル整備、体制作りは行っているが、訓練において地域との協力体制(地域の方の参加)がとれていない。	年2回、建物内併設事業所と合同で昼間想定・夜間想定災害避難訓練が実施されている。地域住民へは毎回訓練のお知らせをポスティングしているが訓練参加は無い。火災・台風対策のマニュアルはあるが、津波・地震対策のマニュアルが整備されていない。敷地外にある法人で備蓄を管理している。	マニュアルの整備と、事業所自体での備蓄管理が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護はもちろんのこと、声かけなど尊重したケアが出来るよう努めている。	利用者一人ひとりの言葉や行動について利用者本位の立場になって考え職員同士で話し合い、利用者を尊重した支援を心がけている。日々の生活の中で安心できる場所や残存能力を活かす環境作り、入浴や食事のペース等、一人ひとりに合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択や食事のタイミングなど、ご本人の希望が把握できるよう声かけなど注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今どこにいて、何がされたいのか、観察、声かけに注意し支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしさ、ご希望が出るよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内管理栄養士と連携し、ご本人の嗜好や分量、食形態や食器の変更など、スムーズに召し上がっていただけるよう配慮している。時には食器の洗浄、テーブル拭きなど入居者に協力いただいている。	3食とも法人の管理栄養士が作成した献立を、副食は法人厨房で調理し、主食は事業所で炊いて食器に盛り付け配膳し、職員も同じ食事を利用者とともに摂っている。本人の希望で配膳・下膳や食器洗いをする利用者もいる。きざみ食やとろみ食等の特別食も元の食材の形を残すように盛り付け工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の摂取量をチェックし、栄養、水分確保には十分な注意を払っている。食形態の変更や、メニューの変更など(追加)も状態にあわせて実施している。少量摂取の方には時間を空け、おにぎりや果物を提供したり、水分は好みのものを提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時から毎食後の口腔ケア、介助が必要な方には職員が付き添う。洗口液を使用する方もいらっしゃいます。入れ歯の方には洗浄剤を使用するなど行っています。訪問歯科を受診されている方はアドバイスをいただいで対応することもあります。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後のトイレ案内を基本に、お一人お一人の排泄パターンを確認しながら、声かけが必要な方には行っています。座位時間の確保が必要な方には、見守りを行いながら落ちついた環境作りを行っています。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。必要な利用者にはタイミングをみて声かけをし、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促す水分の摂取や量に注意し、時には主治医とも連携しながら予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の要望や皮膚状態に応じた対応を心がけている。	週2回の個別入浴を基本とし、利用者の希望に合わせて回数や時間を調整している。利用者は、好みのシャンプーや入浴剤を持ち込み使用している。足の浮腫みや希望のある利用者には足浴もしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状態、体調を考慮し、休息、午睡などの環境を作っている。夜間については、主治医との連携も行いながら、安眠できるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については担当性を導入。情報の共有、確認を行っている。日頃から体調観察は欠かさず、変化については服薬のことも念頭に置きながら対応している。	服薬は事務所奥で保管しており、服用時間に分けてセットし、日付け・名前を確認をし配薬している。利用者に開封して手渡し、服用するまで確認し事故防止に努めている。服薬変更時は申し送り連絡し個別のファイルに薬情報を綴り確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の楽しみや喜びにつながるよう役割(ゴミ箱作りや洗濯物畳みなど)を持っていただいたりしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩するなど行っている。またご家族の協力もいただきながら支援に努めている。	建物内の別フロアや屋上のベランダを散歩したり、事業所のテラス等で外気浴をしている。週1回程度は希望する利用者とともに事業所周辺を散歩している。同建物併設の事業所と車両を共用している為、車両の調整が難しくドライブ等普段行けない場所への外出支援は行なえていない。	利用者の希望に沿った外出支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の能力に応じるべきだが、対応できていない。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の対応は行っていないが、ご家族へ電話をされたりするなどやりとりしている方もいらっしゃる。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間、プライベートな空間作りに努めている。特に季節を感じていただけるよう、行事や四季の飾り付けを行っている。	事業所内は毎月の担当職員が考えた季節の壁紙や飾りつけをしている。トイレの表示を大きくしトイレの場所をわかりやすく工夫している。居間にはソファとテレビを設置し、好きな場所で寛げるようにしている。窓ガラスが大きく、テラスから入る光はカーテンで調整している。テラスは車いすごと出入りできるようになっており、様々な花木を置いて観賞できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が安らいだり、楽しんだり出来る空間作りに努めている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ご本人、ご家族が自由にお部屋作りを行えるよう配慮しています。使い慣れた家具やお写真を飾って安心できるような空間を作られています。	各居室に洗面台、クローゼット、冷暖房が備え付けられており、利用者の状態に合わせて固定ベッドや電動ベッドを設置している。利用者は、使い慣れた椅子やソファ、机、テレビ等を持ち込んでいる。壁には家族写真や本人の作品(書字等)や好きな動物の写真が飾られている。確認行動の多い方の居室入口に部屋番号を大きく表示し確認できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の能力に応じた自立支援の為、安全に配慮しながら色々な工夫を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人 天仁会		
事業所名	グループホーム うえの家		
所在地	沖縄県那覇市上之屋408-4		
自己評価作成日	平成30年1月21日	評価結果市町村受理日	平成 30年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosvoCd=4790100285-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 2月16日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の皆様が、寛げ、安心し、穏やかに過ごせる空間作り、サービスを提供するよう心がけています。
 何より、ご入居者の皆様の個々のニーズ把握が第一と考えていますが、その為にも、日頃の状態観察(体調面や精神面)を欠かさず、それを職員が共有出来るように申し送りを徹底しケア出来るようにしています。
 今後も自宅にいらっしゃるような温もりある生活が提供できるよう支援を継続していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地の住宅街に立地しており、県営団地や民家などが隣接している。事業所開設以来、七夕まつりを開催し毎年、地域住民、子どもたちが参加し盛況である。地域密着型としての社会貢献に意欲的に取り組んでいる。
 母体の医療法人全体で職員研修や資格修得のための支援、受験講座設置、就業規定、人事考課が整備され実施されている。介護職員の正規職員化にも取り組み、介護福祉士有資格者は、3か月の試用期間ののち、正規職員に登用している。未資格者についても研修を実施し、有資格化、正規化に向けて積極的に取り組んでいる。
 運営推進会議の参加者が充実し、議論も活発であり、話し合いの結果を運営に生かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、共有を職員間で図り実践しています。	医療法人内の理念のもとに事業所内の理念を掲げている、いつも目に付く場所へ掲示している。管理者と職員は、日頃のケアを振り返り、理念のもと具体的なケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所への散歩時など挨拶を行い、「うえの家」の存在を認識をしていただいたり、イベントへ参加していただいたりしている。	毎年、複合施設全体でのイベントを行い、地域の方を招いての交流を深めている。地域に根ざす施設になるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	建物入り口の掲示板にポスターを掲示し、どなたでも入ってきやすいように工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に事故報告や苦情へのアドバイスをいただき、職員へ共有。ケアを中心に生かしている。	小規模多機能事業所と合同で運営推進会議を年6回開催している。会議には行政や地域代表が参加し事業所の活動状況、事故等が報告され、意見交換等も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告の際や運営推進会議の中で報告をし、アドバイスをいただいている。	行政は運営推進会議に毎回参加しており、研修会の案内、介護の法改正の制度説明会等がある。その他、窓口訪問等で日頃より市町村との連携がある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束マニュアル」を活用し「行わないケア」を意識しながら実践している。しかし、エレベーターは施錠を行っている。	法人で「身体拘束マニュアル」をで作成しており、職員は入職時のオリエンテーションで研修を受講している。事業所内でも日々のケアについて、マニュアルに照らし合わせて確認するように努めている。身体拘束はしない方針を掲げサービス支援に務めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ご利用者の変化、身体の確認など、日々職員間で申し送りし注意を払っている。ただ、心理的な影響がないか(与えていないか...)等も見逃さないようにしていかなければならない。	職員間の申し送り時に、情報共有し自立支援の理念に沿ったケアができるようにしている。虐待防止に向けて職員の意識向上に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	どのような支援が必要か、日々の申し送りやミーティングなどで検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入居契約時に契約内容全てを一つ一つ、理解いただくまで説明するように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言葉には日々耳を傾け、反映できるよう工夫しています。ご家族には、面会時や病院受診の際に聞き取りを行い反映させています。	利用者の声は日頃からよく聞くようにし、家族からは面会時や受診同行の際に意見や要望を聞くようにしている。外出に関しての要望が多くあるが、現状では難しく検討中である。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りやミーティング、フィードバック、運営会議等を通じて聞き取りし、反映させています。	職員からは、日頃の申し送り時やミーティングの際に意見や要望を聞いている。また、人事考課制度があり、年に2回管理者と面談の機会を設けている。職員の人事異動などの意向に沿えるようにしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員人数が厳しい状況にあるが、応援態勢を取るなど対応している。また法人として、H29.12月以降、給与体系を変更し、安心して勤務できるような環境作りを行っている。	介護福祉士受験資格取得のために、法人により受講料貸付を行い、法人内で実務者研修を開講した。介護福祉士有資格者は3か月の試用期間を経て正規社員に登用している。その結果、職員の定着率が改善されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の実務者研修等を受講しやすくするような工夫(法人内での開催、貸付金などの対応)など実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会による勉強会や法人全体での研修などへ参加し、交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの聞き取りや、以前にサービスを使用していらっしゃるのであれば情報を得られるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望はもちろん、ご家族として何が出来て、何が出来ないのかもしっかり把握し、連携しながらケアできるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き取り、状況を把握し必要なケアの把握に努めている。またグループホームのサービス内容を十分に説明し、他に何が必要なのか見極めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の個性を見極め、自信につながれるようなサービスを提供するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性や役割を把握し支援していく。そのためにも、ご家族が面会に来やすく、ゆっくり過ごせるような雰囲気作りを心がけています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚、友人の方々との交流が促進できるように努めています。	なじみの関係性の把握は利用者、家族から情報を得ている。ご家族や関係者の訪問時には、お茶・茶菓子の提供や、職員との情報交換の時間を確保するようにし、居心地の良い環境整備に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置など考慮している。逆に暴言、暴力などで配置変更する場合もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスへの支援は絶対が必要。(介護保険の知識など)安心して次へ進めるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人を一人の人として尊重し、その人の立場になって支援、ケアを行うように努めている。	利用者の思いや意向は日頃の会話の中で把握し、意思表示が困難な利用者に対しては家族からの情報収集や本人の表情や仕草等から把握するように努めている。利用者の不穏な状況に対しては、行動の背景を把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を考慮し、要望や必要とするケアの把握に努めている。また、暮らしていく中で気付いたことなどを確実にするためにご家族へ確認するなど行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録、申し送りを基に現状の把握に努め、そこから個々の嗜好・趣味に合わせたサービス提供に努めている。時には主治医の意見(アドバイス)も確認する場合もある。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録やモニタリングを基にご家族と意見交換し、ご本人本意のケアプラン作成に努めている。	介護計画作成時には、家族、利用者も同席し、意向を把握しながら作成している。アセスメントは、半年に1回実施している。モニタリングは、更新時に実施しているが、必要に応じて随時実施している。	介護計画を職員が閲覧しやすい位置に保管し、周知を促しているが、日々の介護記録に反映するための周知徹底が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態についてケース記録として回覧。職員間で情報共有し、ケアプランへも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のケアの中からアイデアも出し合い、また各方面からアドバイスももらいながら、一つのケアにとらわれないように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人にとって何か必要なものが他にあるのか、ご家族、主治医の意見も参考にしながら支援につなげている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族本位の主治医連携に努め、相談、連絡、報告を行っている。また、主治医の専門外の状態変化については、状態に応じた医療機関の相談、紹介などを行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続して利用している。定期受診は家族対応を基本としているが、本体法人への受診時には職員が同行する。訪問診療や訪問歯科にも対応している。日中デイへ通う方もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の身体観察は欠かせず、法人内看護師、訪問看護師とも連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供、情報交換に努め、入院先の訪問や主治医との連携に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方針、内容については、その際、その都度に説明を行い、終末期に向けた支援を行っていくよう努めている。	重度化した場合と終末期における対応の方針・指針を、入居時重要事項説明時に家族・本人へ説明を行っている。「医療的ケアを行わない看取り」の希望があれば対応する方針だが現在対象者はいない。職員も内外研修にて学び看取りケアについて理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応についてはフローチャートを掲示し、確認することで意識を高めている。法人内、救急救命講習会も実施している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル整備、体制作りは行っているが、訓練において地域との協力体制(地域の方の参加)がとれていない。	年に2度昼夜想定した非難訓練を実施している。災害対策マニュアルも整備し職員周知を行っている。地域住民へチラシを配布し参加呼びかけを行っているが参加が望めず苦慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護はもちろんのこと、声かけなど尊重したケアが出来るよう努めている。	事業所の理念に則り個人を尊重したケアに努め、日常の声かけはゆったりとゆっくりと話すことを基本としている。個々の残存能力を活かせるよう洗濯物たたみや洗い物、掃除などの活動を日課に取り入れ支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択や食事のタイミングなど、ご本人の希望が把握できるよう声かけなど注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今どこにいて、何がされたいのか、観察、声かけに注意し支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしさ、ご希望が出るよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内管理栄養士と連携し、ご本人の嗜好や分量、食形態や食器の変更など、スムーズに召し上がっていただけるよう配慮している。時には食器の洗浄、テーブル拭きなど入居者に協力いただいている。	法人の管理栄養士の管理のもと、利用者の好み等を加味して作られた食事の配食を利用している。盛り付け等や片付けの手伝いする方もいる。誕生日会や行事のときには職員と一緒に手作りで食事やおやつを作る機会もある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の摂取量をチェックし、栄養、水分確保には十分な注意を払っている。食形態の変更や、メニューの変更など(追加)も状態にあわせて実施している。少量摂取の方には時間を空け、おにぎりや果物を提供したり、水分は好みのものを提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時から毎食後の口腔ケア、介助が必要な方には職員が付き添う。洗口液を使用する方もいらっしゃいます。入れ歯の方には洗浄剤を使用するなど行っています。訪問歯科を受診されている方はアドバイスをいただいで対応することもあります。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後のトイレ案内を基本に、お一人お一人の排泄パターンを確認しながら、声かけが必要な方には行っています。座位時間の確保が必要な方には、見守りを行いながら落ちついた環境作りを行っています。	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンやリズムを把握し管理している。表出のない方には職員間でトイレサインの情報を共有し、羞恥心に配慮しながら声かけを行っている。日中は全員トイレでの排泄を支援し、ゆっくり座ってもらう見守りの工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促す水分の摂取や量に注意し、時には主治医とも連携しながら予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の要望や皮膚状態に応じた対応を心がけている。	週に3回の個浴を基本としているが、要望があれば入浴日以外でも対応できるようにしている。石鹸やクリーム等は本人の好みの物を使用してもらい、脱衣所の温暖も気持ちよく入浴が楽しめるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状態、体調を考慮し、休息、午睡などの環境を作っている。夜間については、主治医との連携も行いながら、安眠できるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については担当性を導入。情報の共有、確認を行っている。日頃から体調観察は欠かさず、変化については服薬のことも念頭に置きながら対応している。	服薬は事務所奥で保管しており、服用時間に分けてセットし、日付け・名前を確認をし配薬している。利用者に開封して手渡し、服用するまで確認し事故防止に努めている。服薬変更時は申し送り連絡し個別のファイルに薬情報を綴り確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の楽しみや喜びにつながるよう役割(ゴミ箱作りや洗濯物畳みなど)を持っていただいたりしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩するなど行っている。またご家族の協力もいただきながら支援に努めている。	日常的に近隣の散歩や、屋上での散歩など気分転換ができるよう支援している。ドライブについては空き車両の調整が厳しく頻繁に実施できていない。定期的に外出が叶うよう家族の協力も要請している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の能力に応じるべきだが、対応できていない。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の対応は行っていないが、ご家族へ電話をされたりするなどやりとりしている方もいらっしゃる。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間、プライベートな空間作りに努めている。特に季節を感じていただけるよう、行事や四季の飾り付けを行っている。	ソファを随所に置き、ゆったり寛げるような空間作りに努めている。 居間からベランダの家庭菜園も眺められ、季節を感じることができる。屋上庭園にもベンチやテーブルが置かれ気分転換ができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が安らいだり、楽しんだり出来る空間作りに努めている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ご本人、ご家族が自由にお部屋作りを行えるよう配慮しています。使い慣れた家具やお写真を飾って安心できるような空間を作られています。	事業所が設置したベットとタンス以外の、持ち込みは制限していない。本人の使っていた寝具やお気に入りの物を持ち込んでいただき、本人らしい暮らしができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の能力に応じた自立支援の為、安全に配慮しながら色々な工夫を行っています。		